



2023年11月28日

証券アナリスト向け IR ミーティング(2023年9月期決算説明会) 質疑応答要旨

質問1：二次電池に関して、2023年9月期は大型案件の引合が活発化したとのことだが、今後もこの状況が続く見立てなのか。もし足元で懸念材料が出てきているのであれば、教えてほしい。

回答1：二次電池案件に関しては引き続き堅調に推移するのではないかと見ている。懸念材料としては、欧州において、自動車電動化の本格的な普及について様々な議論が出て来ている。そこでは、完全電動化の時期が当初予定よりは、若干後ろ倒しになる見通しが浮上していると聞く。したがって、顧客は、二次電池材料の製造に関する投資にやや慎重になるかもしれない。しかしながら、当社としては、大きな流れとして自動車の電動化は揺るがないと考えている為、そこまで悲観視していない。また、中国ビジネスは、貿易摩擦の動向次第では厳しくなる可能性を秘めている。

質問2：プラスチック薄膜関連事業が減速とのことだが、こういった分野の顧客が投資に慎重になっているのか。

回答2：当社装置は、ゴミ袋やレジ袋、eコマース用包装材、レトルトパウチなどに使用する薄膜(フィルム)の製造に用いられる。これまでは、コロナ禍における通販事業の活発化やコロナ禍明けの活動再開・経済活発化によって、eコマース用包装材やゴミ袋の需要が急激に上昇したが、足元ではその反動でそれらプラスチック薄膜材の受給に少々ギャップが生じ始めているのではないかと考えている。その影響で、顧客であるプラスチック薄膜材メーカーは、投資に慎重な姿勢となっているのではないかと推察している。

以上